

新国会 山田 晴義
 市長は、1期目は「9つの政策」を基本方針に掲げて、民間企業の経営手法を取り入れた行政経営への転換を進め、市民本位の施策を展開

してきた。この実績を土台としてさらに改革を前進させ、将来を見据えたまちづくりを
 目指し、「7つの目標」を掲げて2期目に当選された。この
 8年で本市は大きく変わったと実感している。市長は、8年

間の成果をどう評価しているか。また、初当選後、市長の任期間は3任期を超えないとする条例を制定しているが、この間は自らの責任においてやり抜く覚悟であると理解している。立候補を考えているのか、来期への意向を伺う。

答 1期目は、市民生活に密着した政策を中心に思い切った改革断行に手をつけた刷新の第一歩であった。2期目は、さらに改革を押し進め、将来を見据えたまちづくりを

進めていく挑戦を第二歩目と考え、市政運営に誠心誠意努力してきた。特に、この4年間は、教育、子育てに力を注いできた。実績評価としては、おおむね思い描いたものが達成できたと考えている。また、防災対策などの新たな課題や活力あるまちづくりに向けた重点事項を、国や県との関係を最大限に活用し、確実に軌道に乗せることが私の使命であると考えており、市長選に出馬する決意である。

問 平成24年度に向けて、市民協働事業の提案が市民側と行政側の両方から提出され、両者の考え方を互いに持ち寄り、協議する場として市民協働市場が開かれた。市民

協働が具体的な提案となり、新しい公共を創造するための新たなステップが大きく踏み出されたことは評価するが、提案の状況はどうだったのか。また、今回は、募集から採択までの期間が短かったと思うが、今後の課題をどのように考えているのか。市民協働事業を進める上で、協働とは何かという点を理解していくことが大切だが、今後の啓発をどう考えているのか。

答 新たな制度として相互提案型の市民協働事業を実施し、市民から6件、行政から1件の提案があった。市民協働市場での協議を経て、公益性などの観点から市民提案が2件、行政提案が1件採用された。今後、募集から採択までの期間の問題や協働事業に

市長としてこれまでの実績 評価と来期への意向を伺う

市政に対する 一般質問

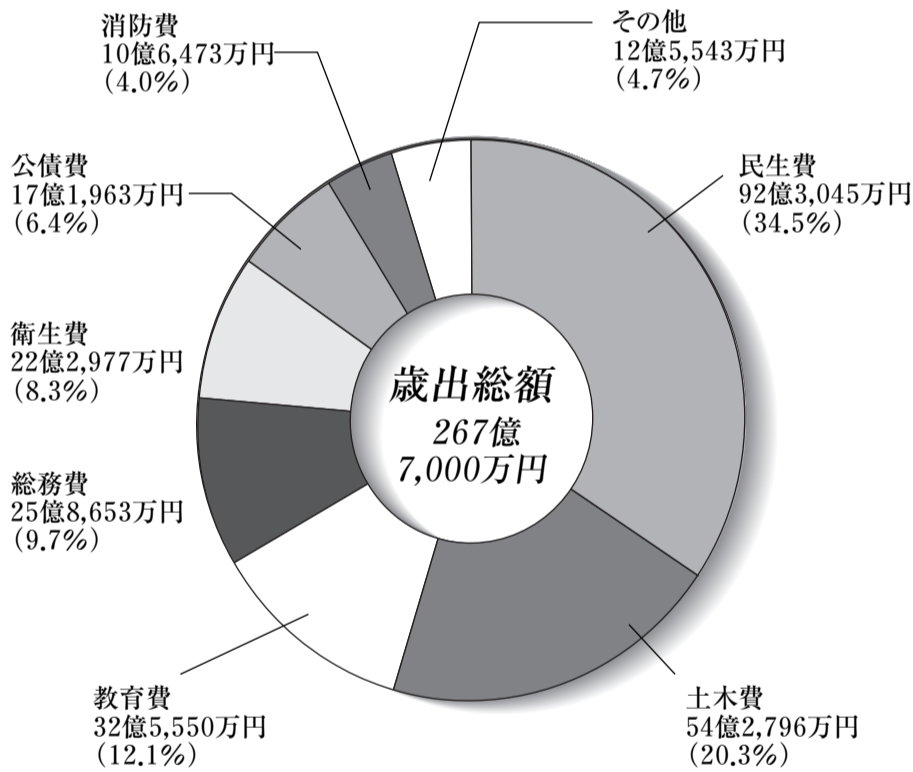
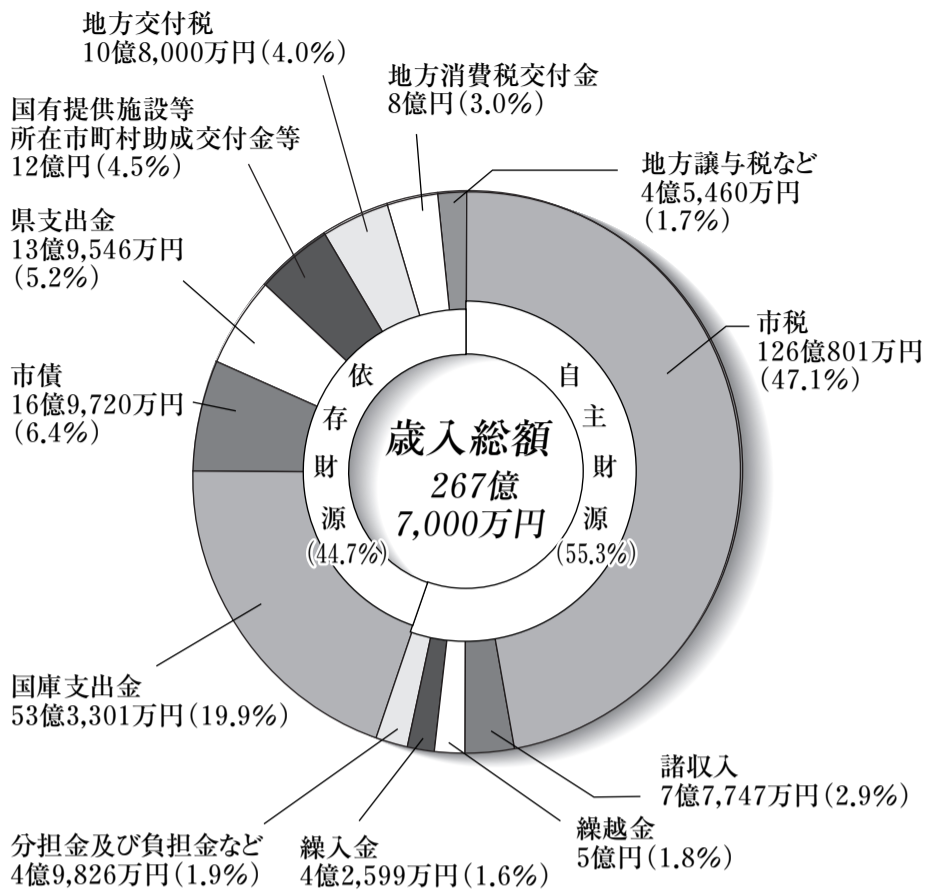
一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をたずねることができるものです。3月定例会では、3月15日・16日の本会議で17人の議員から質問が行われ、論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です（掲載は質問順、6ページまで続きます）。

新しい公共を創造 する市民協働事業 の次のステップは

協働が具体的な提案となり、新しい公共を創造するための新たなステップが大きく踏み出されたことは評価するが、提案の状況はどうだったのか。また、今回は、募集から採択までの期間が短かったと思うが、今後の課題をどのように考えているのか。市民協働事業を進める上で、協働とは何かという点を理解していくことが大切だが、今後の啓発をどう考えているのか。

答 新たな制度として相互提案型の市民協働事業を実施し、市民から6件、行政から1件の提案があった。市民協働市場での協議を経て、公益性などの観点から市民提案が2件、行政提案が1件採用された。今後、募集から採択までの期間の問題や協働事業に

一般会計予算歳入・歳出の状況



平成24年度各会計の予算規模

会計名	予算額	前年度比較		
		増減額	増減率	
一般会計	267億7,000万円	△1億8,000万円	△0.7%	
特別会計	国民健康保険事業	95億9,000万円	2億6,100万円	2.8%
	下水道事業	29億6,100万円	6,200万円	2.1%
	深谷中央特定土地地区画整理事業	7億200万円	△2億5,600万円	△26.7%
	介護保険事業	35億6,500万円	4億7,200万円	15.3%
	後期高齢者医療事業	6億6,600万円	7,000万円	11.7%
	計	174億8,400万円	6億900万円	3.6%
合計	442億5,400万円	4億2,900万円	1.0%	



あやっこりー